

こぶたほいくえん

ながかわ えこ/文 やまわき ゆりこ/絵
福音館書店

こぶたの3兄弟はとても仲よし。毎日まきばでふざけたり、いたずらしたり、大騒ぎ。お父さんとお母さんは、こぶたたちをほいくえんに通わせることにしました。3びきとも最初は不安でいっぱいでしたが、お友達と遊ぶうちに、「ほいくえんだいすき」になります。

元気いっぱいのおぶたの絵もかわいらしく、入園前の子どもに読んであげたいおはなしです。

10ぱんだ

岩合 日出子/文 岩合 光昭/写真
福音館書店

かわいいパンダの表紙をめくると、「1ぱんだ」「2ぱんだ」とパンダの数が増え、リズムカルに増えていきます。

木のぼりやおしくらまんじゅうなど、思わずにっこりしてしまうしぐさもりだくさん！親子で癒される楽しい写真絵本です。

だっこしていいこいいこ

フィリス・ルート/文 ジル・バートン/絵
まつかわ まゆみ/訳 評論社

パパと10にんのこども

ベネディクト・ゲッティエール/作
那須田 淳/訳 ひくまの出版

よわむしらいおん

八木田 宜子/文 長 新太/絵 徳間書店

でんしゃでいこう でんしゃでかえろう

間瀬 なおかた/作・絵 ひさかたチャイルド

つみきでとんとん

竹下文子/文 鈴木 まもる/絵 金の星社

ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイグ/作 木坂 涼/訳 セーラー出版

おおきなのはら

ジョン・ラングスタッフ/文 フォードル・ロジャコフスキー/絵
さくま ゆみこ/訳 光村教育図書

ごあいさつ ごあいさつ

渡辺 有一/作・絵 あかね書房

うんちっち

ステファニー・ブレイク/作 ふしみ みさを/訳 あすなる書房

いたずらこねこ

ポール・ガルドン/作 中井 貴恵/訳 ほるぷ出版



いきもの

くろねこかあさん

東 君平/作
福音館書店

くろねこかあさんが6びきのこねこを生みました。しろねこが3びき、くろねこが3びきです。くろねこかあさんとこねこたちのほのぼのとした日常が、白と黒で切り絵のように描かれています。繰り返しの文章は、子どもにも親しみやすく、親子で楽しめる絵本です。

むかしばなし

ちいさなあかいめんどり

バイロン・バートン/文・絵 ながかわ ちひろ/訳
徳間書店

働きもののめんどりが、小麦を育ててパンを作ることにします。ぶた、あひる、ねこに何度も「てつだってくれる？」と頼みますが、「やだよ」と断られてしまいます。ぜんぜん手伝わなかったのに3匹は、パンを食べるときだけ「もちろん」と手伝おうとします。でも、めんどりは……？

あざやかな色調とテンポ良く繰り返す文が楽しい、イギリスの昔話です。



ずいとんさん

日野 十成/再話 斎藤 隆夫/絵
福音館書店

ずいとんさんはお寺の小僧さんです。ある時、ひとりで留守番をしていると、どこからか、「ずーいとん」と呼ぶ声がしました。どうやらきつねのいたずらようです。きつねとずいとんさんが頭を使ってお互いをだましあう様子がとても楽しいおはなしです。

平面的な絵と落ちついた色あいが昔話の雰囲気をよく伝えています。

佐賀県立図書館100周年記念事業

おすすめの絵本

3歳から



かぞく

とんとんとん!とをたたくのはだあれ?

サニー・グランドレー/文 アンソニー・ブラウン/絵 灰島 かり/訳
評論社

夜、女の子がベッドで寝ていると、「どんどんどん!」「こんこんこん!」と戸をたたく音が。色々な音にドキドキしながら、外にいるのは誰?おっかないゴリラ?いじわるな魔女?でも、本当はね……。

絵に、ご注目。ページをめくるたびに小さな発見があります。



ちょっとだけ

瀧村 有子/作 鈴木 永子/絵
福音館書店

なっちゃんのおうちに赤ちゃんが生まれました。お母さんは忙しいので、お姉さんになったなっちゃんは、ひとりで行ういろいろなことに挑戦します。そして、ちょっとずつ成長していきます。

やさしい色使いで描かれたなっちゃんの表情や姿から子どもの健気な気持ちが伝わってきます。母親の深い愛情にあふれていて、子育て中のママに是非読んでもらいたい1冊です。

ぱぱだいすき

セバスチャン・ブラウン/作・絵
徳間書店

パパは、いつも遊んでくれる。水遊び、かくれんぼ、かけっこ。

パパがいれば安心。ぎゅうって抱っこしてくれる。お父さんぐまとこぐまのふれあい、1日の情景がゆったりと描かれています。

やさしく描かれた絵もすてきな、心がふんわりとあたたかくなる絵本です。

おっぱい

みやにし たつや/作・絵
鈴木出版

そうさん・ねずみさん・ごりらさん・ぶたさん、そして、僕のお母さん。それぞれのお母さんが子どもに込めた思いが伝わります。

優しくて温かいお母さんのおっぱいで大きくなった僕。だけど、今は……。最後は、思わずほほえんでしまいます。

ストレートな言葉、はっきりした色使いの絵、それらによく調和した文字のデザインで、1枚の絵としても楽しめる絵本です。

佐賀県内公共図書館児童サービス研究会作成

そらまめくんのベッド

なかや みわ/作・絵
福音館書店

そらまめくんの宝物は、ふわふわで綿のようにやわらかい、サヤのベッドです。えだまめくんたちがうらやましがりますが、誰にも使わせりません。ところが、ある日、その大切なベッドがなくなってしまう。あっちこっち探してやっと見つけると……。

そらまめくんと友だちとのやりとりが、子どもたちに起こる日常と重なります。やさしさと思いやり、友だちの大切さがじんわり伝わってくるお話です。

やさいのおなか

きうち かつ/作・絵
福音館書店

「これなあに」と親子で楽しみながら読める絵本です。野菜の断面がシルエットで描かれています。「なんだろう」とわくわくしながらページを開くと、カラーで答えが出てきます。

ネギにピーマン、キャベツにニンジン、トマト……。身近な野菜たちのおなかの中をちょっぴり覗いてみませんか。

わにわにのお風呂

小風 さち/文 山口 マオ/絵
福音館書店

お風呂が大好きなワニのわにわには、今日もお風呂場で、シャワーヘッドをマイクがわりに歌って、はしゃいで、上機嫌です。

擬音語、擬態語が豊富に使われていて、ページをめくるたびに次はどんな遊びをしているのかわくわくしてきます。

絵は、色あざやかであたたかみがあり、わにわにのおもしろく、かわいらしい姿から、お風呂の楽しさが伝わります。



やさしい
きもち

コッコさんとあめぶり

片山 健/作・絵
福音館書店

毎日毎日雨ばかり。そこで、コッコさんはてるてるぼうずを作って、雨がやむようお願いしました。でも、次の朝もやっぱり雨。

あれこれ工夫してみますが、雨はいつにもやみません。コッコさんはてるてるぼうずが疲れているのだと思い、休ませてあげることにしました。すると……。

雨の雰囲気やコッコさんの気持ちが、絵とおして伝わってきます。てるてるぼうずの表情の変化にも気持ちが表れています。

いっしょに
あそぼう

どろだんご

たなか よしゆき/文 のさか ゆうさく/絵
福音館書店

子どもたちが大好きな泥遊び。「べちゃべちゃ」「にゆるにゆる」遊んだ後は、固くて光る泥だんご作りに挑戦!!「ぎゅっぎゅっ」とにぎって、そうとなで……。色んな泥だんごのできあがり。

擬音語と絵から、泥の感触や泥遊びの楽しさが伝わってきます。

うずらちゃんのかくれんぼ

きもと ももこ/作
福音館書店

うずらちゃんとひよこちゃんが、なかよくかくれんぼをはじめました。「もういいかい」「まあだだよ」。お花の一部になってみたり、ひょうたんやキノコになりすましてみたり……。

色あざやかな絵が目を開きます。「どこにかくれたのかな?」と問いかけて、親子でさがしごが楽しめる絵本です。



さつまのおいも

中川 ひろたか/文 村上 康成/絵
童心社

おいもは土の中でごはんも食べるし、おふうにもはいるし、夢だってみるんです。どんな夢をみるのかな。

そんなおいものはたけに子どもたちがやってきて、おいもと子どもの綱ひきが始まりました。「うんしょ、とこしょ」「うんしょ、とこしょ」

ユーモラスなおいもの表情を楽しみながら、一緒に声をかけましょう。



あくび

中川 ひろたか/文 飯野 和好/絵
文溪堂

はじめにあくびをしたのは、かばでした。それがきりんにつつて、ぞうにつつて、次々に動物たちが大きなあくびをします。その様子をテレビで見ていたパパにもうつって、それを見たママにもうつって、ママを見たばくにもうつって……。 「あくび」が遠い外国からわが家まで届くという発想が愉快です。

言葉の繰り返し楽しく、目に飛び込んでくる大きなあくびの絵に、思わずあくびがでてしまいそう。

たこしんごう

赤川 明/作・絵
ひかりのくに

たこのじいちゃんと孫がなかよく散歩にでかけました。ところが、魚の群が道をふさいでいて先に進むことができません。「わたりまあーす!」と叫んでもダメ、怒ってもダメ。どうすれば魚は止まってくれるのでしょうか。そのとき、ふぐがやってきて……。

親子で楽しみながら、道路のわたり方も学べる絵本です。

いっしょに
あそぼう

コッケモーモー!

ジュリエット・ダラス=コンテ/文 アリソン・パートレット/絵
たなか あきこ/訳 徳間書店

ある朝、おんどりが鳴くと、「コッケモーモー!」「コッケガーガー!」なんと、鳴き方を忘れてしまったのです。何回鳴いても間違っばかりで、悲しくなってしまったおんどりですが、みんなが寝静まったところに事件が起きて……。

絵はカラフルで、動物たちの表情も豊かです。色々な動物の鳴き声が出てくるので、大きな声で鳴きまねをすると楽しいですよ。

もけらもけら

山下 洋輔/文 元永 定正/絵
福音館書店

本を開くと、おもしろい色使いの不思議な図形が踊り出します。言葉が音になり、曲を奏でているような楽しい絵本です。

ジャズ・ピアニスト山下洋輔氏ならではの「ことば」と、モダンアート作家元永定正氏の絵が、独特の雰囲気を創り出しています。

いきもの

でんしゃにのって

とよた かずひこ/作
アリス館

うららちゃんは、おばあちゃんの所へ行くために一人で電車に乗りました。すると「つぎは、わにだー、わにだー」とアナウンスが聞こえます。駅に着くと、わにが乗ってきました。それからも駅に着くたびに、駅と同じ名前の動物が次々に乗ってきます。

「ガタゴトー、ガタゴトー」とくり返す電車のリズムが心地よく、席をゆすり合う動物たちの温かさが絵からも伝わってきます。

